

5. 委員会活動の充実

1) 委員会の基本的なありかた

○各種委員会は、倫理研究所法人局の方針に則り委員会統括委員長のもと、各単会の委員会活動の活性充実を最優先に、他各委員会との連携を図り、各単会活動の充実と普及活動“仲間づくり”の推進につなげる。

(普及拡大委員会は幹事長が掌握し、委員長が会の運営を推進させる)

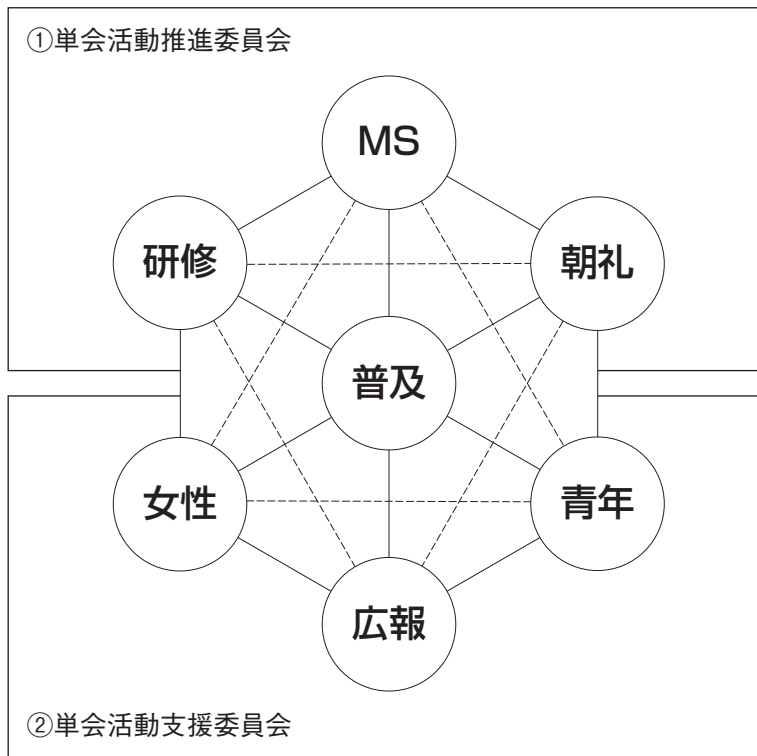
◇副幹事長①(統括委員長)のサポートについて

MS・研修・朝礼の各委員会は「単会活動推進委員会」として、各単会の当該活動に関する質の向上と量の拡大を図れるよう指導する。

◇副幹事長②(副統括委員長)のサポートについて

広報・女性・青年の各委員会は「単会活動支援委員会」として、各単会の当該活動に関する効果的な支援活動となるよう指導する。

◆各委員会の連携構成イメージ



★上記チャートは、県及び単会における各委員会の直接・間接的な、関係性をイメージしたものです。6委員会は、普及拡大委員会と直接関係して、仲間づくりの情報源となることを意味しています。

2) 委員会行事について

- 各委員会は、年度当初に行事計画の骨子、年間スケジュールをまとめ、それぞれの目的・目標の達成にむけて、計画的・効果的に遂行する。
- 行事の遂行にあたっては、都度当該委員会でその行事内容を企画立案し、企画会開催の5日前までに行事計画書を提出、承認された行事を展開する。(終了後はただちに行事報告書を企画会に提出する)
- また、年間行事予定以外の突発的な行事は開催しない。
- 各委員会は、必要に応じ随時開催とする。(年間の計画をたてる)

3) 委員の立場

- 県委員会の各委員は、所属する単体法人会の役職者(幹事以上)でもあり、その単会においては当該委員会の委員長となります。
(委員長は、年間を通して徐々に一般会員をお誘いし組織の拡大に努める)
- 各委員長は、毎月の単体法人会役員会に出席し、県委員会の報告を行う。

4) 委員長連絡協議会について

- 正副統括委員長は、県役員会終了後に「委員長連絡協議会」を開催し、各委員会全体のとりまとめを行う。
- 委員長連絡協議会は、各委員会の事業目的をはずすことなく、単会活動の“推進”と“支援”を積極的に強力に推し進める。
- 各正副委員長は、毎月の地区会に輪番で出席し、各地区との連携を深める。
- 委員長会、各委員会終了後は速やかに議事録を作成し県事務局へ提出する。

5) 各委員会の役割について

普及拡大委員会のありかた

- ①委員会は、県目標必達の為、地区・単会それぞれの目標数(達成日)と、毎月の進捗状況等を共有し、全地区・全単会の期日達成をめざす。
★毎月、地区長主導により、地区ごとの普及拡大委員会を開催する。
(単会三役との意見交換の場を設け、全単会の通年普及実現を目指す。)
- ②普及拡大委員会は原則各単会の現会長で構成。(単会では委員長となる。)

 - 委員(単会会長)の“正しい普及”の理解促進を図るとともに、普及意欲高揚の手立てと具体的な戦術の研究・強化を図る。
 - 6委員会の“仲間づくり”事業が、単会の多くの各委員を巻き込み、楽しく効果的に行われるよう、統括委員長と連携してサポートする。
 - 地区や単会で「普及マニュアル研修」や「単会活性化戦略」などが、積極的に効果的に活用されるよう支援する。

- ③委員会行事としては、「決起大会」「拡充発表会」「目標達成式典」を積極果敢に展開できるよう、全地区・全単会の意識の高揚を図る。

【単会活動推進委員会】

この委員会は、単会における主要行事を、その目的をはずすことなくより効果的に推進できるよう、会長の指示を受け積極的に働きかける委員会である。

MS委員会のありかた

- MSは『経営者モーニングセミナー マニュアル』（最新版）に則り、基本に沿って開催することを大前提とし、言葉などの付け加えや一切の省略もせず、“マニュアル通り”の理解と徹底促進を図る。
- MSリハーサルの徹底と役員朝礼チェックリーダーの養成活用を図る。（チェックリーダーは、地区内の他単会のMS委員が望ましい）
- 体験報告会員スピーチの定着と充実を図る。（月1回：会員規模で考慮）
- MS出席者数の前年度比を、いかに増加させるかの検討・推進を図る。
- 委員は、他単会のMSムードに触れ、自単会へフィードバックする。

研修委員会のありかた

- 研修委員会は、県および単会における“研修”に関する諸事業を、積極的にサポートし、その効果を最大限に高める。
- “経営者の集い”“倫理経営基礎講座”はその開催意義や内容の理解促進に努め、出席対象者の出席率を高めるための施策を研究し推進する。
- 富士研（経営者セミナー）参加者の募集および事業のお世話役となる。
- 委員自らの学習意欲を高め、単会の研修行事に貢献する。
- 休眠会員をナイトセミナーなどにお誘いする企画を進言し積極的に協力する。

朝礼委員会のありかた

- 「職場の教養」を活用した“活力朝礼”の意義を充分理解し、朝礼実施企業の増大を図るとともに“会員サービス”の徹底を図る。
- 「朝礼基本マスター研修」により朝礼インストラクターの養成と活用を図る。
- 県が企画する「朝礼コンテスト」（予選・本選）には中心的な役割を担い、各単会からの参加企業の増大と、コンテスト見学者の増大を図る。
- 「活力朝礼」モデル企業の育成と「終礼」実施の促進を図る。
- 会員・非会員企業への朝礼視察などを企画し、活力朝礼の普及に努める。

【単会活動支援委員会】

この委員会は、単会のすべての事業をより円滑に推進できるよう、それぞれの立場で積極的に支援する委員会である。

広報委員会のありかた

- 広報委員会は、県事業の広報と単会事業の広報を支援する。
- 県広報紙“さんSUN”及び“りんゆう”の取材対象者をノミネートし、統括委員長のもとに蓄積する。(ノミネートには単会会長の了承を得る)
- 各事業・行事における計画的な取材・情報の蓄積を図る。(写真撮影など)
- MS案内チラシなど、他単会の情報を集め自単会へフィードバックする。
- 単会行事での録音・録画・撮影などの禁止事項を周知徹底させる。
- 研究所発行の「倫研新報」への情報提供と県HPの活用を図る。

女性委員会のありかた

- 女性会員がその“らしさ”を発揮し“輝き”のある働きができるよう、学びあい、高めあい、仲間づくりを楽しむ委員会とする。
- 倫理法人会における“女性らしさ”研究セミナーの企画・実施。
- 女性の力を普及に取り込むには…の研究などを推進する。
- 地区における、女性だけの“オモシロ懇話会”などを企画し、女性の仲間づくりに貢献する。

青年委員会のありかた

- 各単会のムードメーカーとして、若いパワーを発揮させた青年層の取り込みと、倫理を学ぶ若い仲間づくりを楽しむ委員会とする。
- 若手経営者・後継者と若手独身社員の区別対応研究などを推進する。
- 倫友予備軍としての取り込み方の研究と開発
- 若手独身社員を対象にした「セミナー」を年1回開催する。
- 地区における、青年だけの“オモシロ懇話会”などを企画し、青年の仲間づくりに貢献する。

全ての委員会に共通した役割は “仲間づくり”です。

- 各単会の委員会ごとに、会長の指示のもと年二回(前期・後期)以上、“仲間づくり”を目的とした「お楽しみ会」等を企画し、休眠会員や委員の友人知人(未入会者)をお誘いして、倫理法人会のユニークさ楽しさ、そして経営者としての“学び”になりそうだと気づけるよう、積極果敢に事業を展開する。
(この時、入会促進はしない。)
- 重要なことは、次回のお誘いに“喜んで参加してもらう”こと。
- 次回のお誘いとは、単会主催の「経営者の集い」「倫理経営講演会」や、「オモシロ懇話会」等。又、モーニングセミナーへのお誘いも可能だが、一般に早朝はハードルが高いものだと心得るべきこと。
相手の心境に合わせて徐々にお誘いすることが肝要。
- 「お楽しみ会」は、委員会の人数の問題等で、複数委員会の合同開催や、地区内の同委員会の合同開催も可能。(必ず地区長に相談すること)
- ★退会防止「三たろう交流」参照

6) 委員会の会合について

- 委員会は合理的な会合で年度当初に計画した行事を遂行する。(随時開催)
- 原則として、県事務局の会議室を利用する。
(会議室使用予定や他委員会との調整を図りながら活用する)
- ※委員会ごとの“単会委員長研修”により、委員会活動の活性化を図る。
- ※年度の最終会合で、“仲間づくり目標達成祝賀会”などを、企画する場合は、必ず統括委員長に相談すること。

6. 後継者倫理塾について

三期目を迎える「後継者倫理塾」は、第一・二期と感動の修了式が行われました。年間9講(1泊2日)のカリキュラムを通して、企業の未来を担う後継者の育成を目的として、純粹倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性を備えた、真のリーダーとなるための後継者の養成塾です。

毎年(10～7月)開塾しますので、会員企業の後継者を是非お誘いください。また、未会員企業でも“入会”を条件にお誘いすれば、単会の普及に繋がります。募集期間は(7月1日～8月20日)ですが、通年募集で普及を推進しましょう。

単会“委員会”活動の充実

単会は“地域創生”のタグボートだ！

地元地域の中小企業や経営者の方々と共に、元気な企業を目指すことが私たち役職者の使命です。

単会を“MS普及号”というタグボートに例えると、

その時々の単会の事業目的（講演会やイベントの成功）が旗印になります。

そのゴールに向かって個々の委員会が“底引き網”のように、

それぞれの委員会の特性を活かして、

仲間づくりの情報集め行事を展開します。

この網を効率よく動かすためには、三役が中心になり、

元気よく前進させなければなりません。

勿論、ボートの操舵は会長の役割。

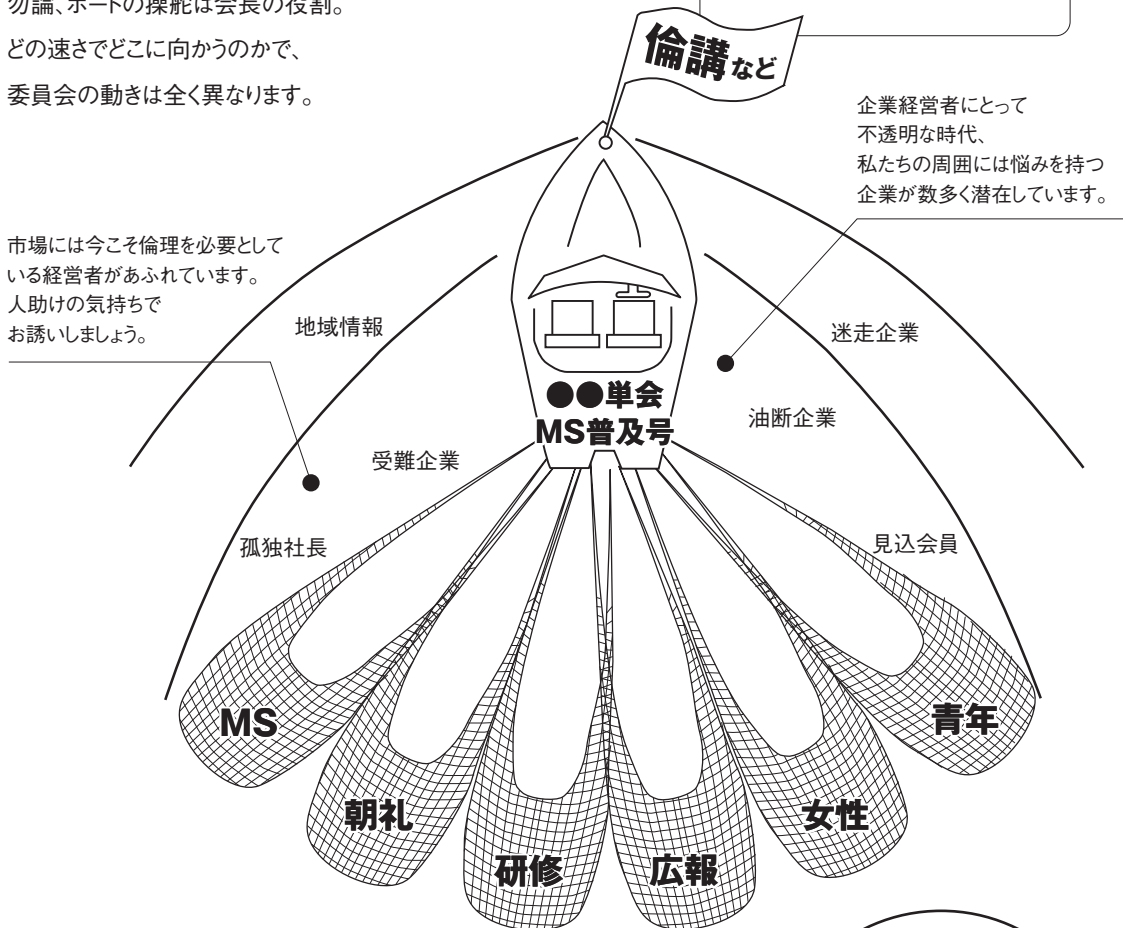
どの速さでどこに向かうのかで、

委員会の動きは全く異なります。

市場には今こそ倫理を必要としている経営者があふれています。人助けの気持ちでお誘いしましょう。

「倫理経営講演会」や「経営者の集い」、「ナイトセミナー」などは、すべて“心の経営”を目指す人々のネットワークを広げるためのものです。

企業経営者にとって不透明な時代、私たちの周囲には悩みを持つ企業が数多く潜在しています。



より多くの人を惹きつける

魅力的な「磁石」づくりを考えよう

マグネット手法で仲間づくりを推進しよう！

人は「似た者同士」が集まる習性を持っています。

気さくな人には明るい人が、暗い人には理屈っぽい人が集まり、

ゴルフ好き、カラオケ好きな人同士が集まっています。

同好会を結成したり、気軽なイベントを切り口にして仲間づくりを推めましょう。

★少人数の委員会では、複数の委員会や地区内での合同企画による同好会活動も効果的でしょう。